

平成 26 年度 第 1 回 屋代高等学校・附属中学校 学校評議員会 記録

日 時： 平成 26 年 8 月 6 日(水) 10:00～11:30

場 所： 本校会議室

出席者： 学校評議員 5 名

学校職員 10 名（学校長，教頭，教務主任，キャリア教育主任，生徒指導主任，生徒会，SSH 委員，入試広報，フロンティア委員，学校評議員会委員）

司 会： 北島教頭

1 学校長あいさつ

(学校長)

2 自己紹介

3 学校からの説明 各担当より本校の課題について

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 附属中学校について | (中学校教務主任) |
| (2) 進路状況と高校生の姿から見る学習課題 | (キャリア教育主任) |
| (3) 生徒指導全般について | (生徒指導主任) |
| (4) 第Ⅲ期 4 年次 SSH について | (SSH 委員) |
| (5) 入試選抜，広報関係について | (教頭) |
| (6) 学校評価について | (教頭) |

4 質疑および提言

(1) 本校へのご意見・要望

- ・ 大学生の学習時間も長い者と短い者に二極化している。自学自習できることが重要。学習→“学修”，自学自習→“自学自修”と表記して意識づけることを提案したい。自習環境の整備状況は？
⇒ 他校では、エアコン完備、夜 7～8 時までの自習室開放もあたりまえになりつつある。土曜も補習、日曜もという話も。環境の整った塾に行く流れもある。塾はいたれり尽くせり、そこまでする必要があるのかと思う。
- ・ 国公立大学合格者数が県内 3 位。本校はよく頑張っている。安価で良質なのが公教育の役割。受験勉強だけしている者は最後に伸びない。バランスよく斑活動も頑張る、粘り強くたくましい生徒を育ててほしい。
- ・ 日曜日に補習をととは思わない。同窓会の協力で学習環境を整備している学校は多い。やはり、県にはエアコンを付ける予算は無い？
⇒ 県としては、ようやく保健室に整備するようになったところ。多くの学校は同窓会の何周年事業とか、PTA の積立といった予算で整備している。何にせよ維持費が大きい。
- ・ 現状でも十分にやってもらっている。手とり足とり面倒を見てもらっても、大学に行けば全部一人で出来なくてはならない。たくましい人間に育てるほうが大事。いい子たちが育っていると思う。卒業生が帰って来られる温かな先生のいる学校が良い。
- ・ やり過ぎると、子どもも親も考えることをしなくなる。今の小学生やその親の年代は、丸投げするような傾向がある。数年後には高校に来る。その人達は「日曜日の補習」なども喜んで受け入れるのだろうが、それで本

当に将来的に良いだろうか。

- 生徒にも親にも「お世話になっている」という感覚が無い。国のお金を使って教育が行われているのに。彼らは自習室を求めて塾に来る。塾は商売なので学校とは違う。サテライト講義の映像教材などもあるが、効果は受ける者の能力次第という面が大きい。
- 一貫生と選抜生を混ぜる、クラス替えなどはあるのか？ ⇒無い。
- 説明にあった「中高教員の相互乗り入れ」というのはアピールできるポイント。生徒の伸びしろを十分に伸ばしていることもアピールすべき。また今後、SSH を活用した AO・推薦入試が重要になるだろう。大学で説明会が開催されたり、本校では中学生が大学を訪問するそうだが、それらの機会に、大学が望む生徒像を噛み砕いて伝えてやるのが大事ではないか。本校はそれができるのだから。ところで、地域にも育ててもらうという意味では、「交通危険マップ」を地域に配布しては？
- ある人が小学生と接触事故を起こしたが、小学生が「大丈夫」と言うので、名乗らずに立ち去ってしまった（ひき逃げになりかねない）。同様に、自転車に乗る高校生も加害者になりかねない。その点をよく指導しておいてほしい。

(2) 附属中学校・屋代高校の今後のあり方について その他

- こうして様々な話を聞くと「時代が変わった」と感じる。しかし、変わることなく、人間として大切な基本的なことを育ててほしい。
- 屋代高校の生徒は、良い意味でほのぼの、世知辛くない、いい子たちばかり。そもそも、高校生はもう人間として出来上がっていて、手がかからない。中学生は、地域・郷土の未来を担う人材としてその優れた能力を発揮してくれるよう、しっかり育ててほしい。
- 今の時代、親もわがままになっている。何でもかんでも学校が出来るわけではないと解かってもらう必要がある。そのために PTA の活動がある。学校が全て引き受けたら、教員が倒れる。生徒にも良くない。ところで、県教委の通達で実施することになった評価アンケートの件だが、私は反対だ。問題ある教員はごく一部。学校評価なら既におこなっている。さらにやる必要があるのか。
- 世界で活躍する人材をとよく言われるが、グローバル化の芯にあるのは他者理解だ。今の生徒たちにはそれがあると感じる。中等・高等教育に望まれるのは、自ら学ぶ力、一生学び続ける人間を育てることだ。
- 謝罪会見で「責任は私にあります」と頭を下げる姿など報道で見ると、潔く美しいが、親の責任の部分に言及できないことに引っかかりを感じる。それを言えるだけの関係作りが足りないのだと思う。自分も何か苦手があって不十分な人間であり、相手もまた不十分な人間であるという認識から、お互いを認め合える関係を形成できるといい。

5 閉会 学校長より

普通科の中高一貫生、普通科の選抜生、理数科という異なる集団をどう融合していくかを今考えている。附属中学生に本校を選んだ理由や良かった点を聞くと、高校入試が無いから、兄姉が屋代は良いと言うから、授業中の発言など自由に表現しやすいから、などが挙げられる。高校生が中学生をかわいがる様子も見られる。附属中学生も含め、一つの学校としてまとめて作りあげていく。評価アンケートの話だが、相次ぐ非違行為の問題からのことと考える。以前からおこなってきた授業アンケートに加える形で実施する予定だが、保護者からの回答を匿名性を確保しつつ回収する方法を検討している。中学・高校の教育は、生涯にわたる学習の一環を担うもの。とは言え、進路指導はやはり重要。本校ではキャリア教育としておこなっている。